

1

解答解説のページへ

$\triangle ABC$  の外心を  $O$ , 重心を  $G$  とする。  $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$ ,  $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ ,  $\overrightarrow{OC} = \vec{c}$  とし,  
 $|\vec{a}| = |\vec{b}| = |\vec{c}| = 5$ ,  $4\overrightarrow{AG} + 3\overrightarrow{BG} + 5\overrightarrow{CG} = 12\overrightarrow{OG}$

を満たすとする。次の問いに答えよ。

- (1)  $4\vec{a} + 3\vec{b} + 5\vec{c} = \vec{0}$  を示せ。
- (2) 内積  $\vec{a} \cdot \vec{b}$ ,  $\vec{b} \cdot \vec{c}$  および  $\vec{c} \cdot \vec{a}$  を求めよ。
- (3)  $|\overrightarrow{OG}|$  の値を求めよ。

2

解答解説のページへ

座標平面上の原点  $O$  を中心とする半径  $1$  の円周  $C$  上の点を  $A(a, b)$  とし、 $f(x) = (x-a)^2 + b$  とする。点  $B(0, -2)$  から放物線  $y = f(x)$  に引いた接線を  $l_1, l_2$  とし、接点をそれぞれ  $P(p, f(p)), Q(q, f(q))$  とする。ただし、 $p < q$  である。放物線  $y = f(x)$  と  $2$  直線  $l_1, l_2$  とで囲まれた部分の面積を  $S$  とする。次の問いに答えよ。

- (1) 接線  $l_1$  の方程式と接点  $P$  の座標、および接線  $l_2$  の方程式と接点  $Q$  の座標を  $a, b$  を用いて表せ。
- (2) 面積  $S$  を  $b$  を用いて表せ。
- (3) 点  $A$  が円周  $C$  上を動くとき、面積  $S$  の最大値とそのときの点  $A$  の座標  $(a, b)$  を求めよ。

3

解答解説のページへ

数列  $\{a_n\}$  を次の条件(i)および(ii)を満たすように定める。

(i)  $a_1 = 0, a_2 = 3$

(ii) 3 以上の自然数  $n$  に対して、第  $(n-1)$  項  $a_{n-1}$  の値が初項  $a_1$  から第  $(n-2)$  項  $a_{n-2}$  までのどの項の値とも等しくないときは  $a_n = a_{n-1} - 1$  であり、第  $(n-1)$  項  $a_{n-1}$  の値が初項  $a_1$  から第  $(n-2)$  項  $a_{n-2}$  までのどれかの項の値と等しいときは  $a_n = a_{n-1} + 6$  である。

次の問いに答えよ。

- (1) 数列  $\{a_n\}$  の第 3 項から第 10 項までの各項の値を求めよ。
- (2) 数列  $\{a_n\}$  の第 2015 項の値を求めよ。
- (3) 数列  $\{a_n\}$  の初項から第 201 項までの和を求めよ。

4

解答解説のページへ

自然数  $n$  に対して、関数  $f_n(x)$  を次のように定める。

$$f_1(x) = 1 - \frac{x^2}{2}, \quad f_n(x) = \int_0^x f_{n-1}(t) dt \quad (n \text{ が偶数のとき})$$

$$f_n(x) = 1 - \int_0^x f_{n-1}(t) dt \quad (n \text{ が } 3 \text{ 以上の奇数のとき})$$

次の問いに答えよ。ただし必要があれば、 $0 < x \leq 1$  のとき  $x - \frac{x^3}{3!} < \sin x < x$  が成り

立つことを用いてよい。

(1) 関数  $f_2(x)$ ,  $f_3(x)$  を求めよ。

(2)  $0 \leq x \leq 1$  のとき、次の不等式が成り立つことを示せ。  $-\frac{x^4}{4!} \leq f_1(x) - \cos x \leq \frac{x^4}{4!}$

(3)  $0 \leq x \leq 1$  のとき、次の不等式  $-\frac{x^{2m+2}}{(2m+2)!} \leq f_{2m-1}(x) - \cos x \leq \frac{x^{2m+2}}{(2m+2)!}$  がすべて

の自然数  $m$  に対して成り立つことを示せ。

(4) 極限值  $\lim_{m \rightarrow \infty} f_{2m-1}\left(\frac{\pi}{6}\right)$  を求めよ。

1

問題のページへ

(1)  $\triangle ABC$  の重心  $G$  に対して  $\overrightarrow{OG} = \vec{g}$  とおくと,  $4\overrightarrow{AG} + 3\overrightarrow{BG} + 5\overrightarrow{CG} = 12\overrightarrow{OG}$  から,

$$4(\vec{g} - \vec{a}) + 3(\vec{g} - \vec{b}) + 5(\vec{g} - \vec{c}) = 12\vec{g}$$

よって,  $4\vec{a} + 3\vec{b} + 5\vec{c} = \vec{0}$  となる。

(2) (1)から,  $4\vec{a} + 3\vec{b} = -5\vec{c}$  となり,  $|4\vec{a} + 3\vec{b}| = |5\vec{c}|$  から,

$$16|\vec{a}|^2 + 24\vec{a} \cdot \vec{b} + 9|\vec{b}|^2 = 25|\vec{c}|^2$$

すると,  $|\vec{a}| = |\vec{b}| = |\vec{c}| = 5$  より,  $\vec{a} \cdot \vec{b} = \frac{1}{24}(25 - 16 - 9) \cdot 5^2 = 0$

同様にして,  $3\vec{b} + 5\vec{c} = -4\vec{a}$  より,  $9|\vec{b}|^2 + 30\vec{b} \cdot \vec{c} + 25|\vec{c}|^2 = 16|\vec{a}|^2$  となり,

$$\vec{b} \cdot \vec{c} = \frac{1}{30}(16 - 9 - 25) \cdot 5^2 = -15$$

また,  $4\vec{a} + 5\vec{c} = -3\vec{b}$  より,  $16|\vec{a}|^2 + 40\vec{c} \cdot \vec{a} + 25|\vec{c}|^2 = 9|\vec{b}|^2$  となり,

$$\vec{c} \cdot \vec{a} = \frac{1}{40}(9 - 16 - 25) \cdot 5^2 = -20$$

(3)  $\overrightarrow{OG} = \frac{1}{3}(\vec{a} + \vec{b} + \vec{c})$  なので, (2)から,

$$\begin{aligned} |\overrightarrow{OG}|^2 &= \frac{1}{9}|\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}|^2 = \frac{1}{9}(|\vec{a}|^2 + |\vec{b}|^2 + |\vec{c}|^2 + 2\vec{a} \cdot \vec{b} + 2\vec{b} \cdot \vec{c} + 2\vec{c} \cdot \vec{a}) \\ &= \frac{1}{9}(25 + 25 + 25 + 0 - 30 - 40) = \frac{5}{9} \end{aligned}$$

よって,  $|\overrightarrow{OG}| = \frac{\sqrt{5}}{3}$  である。

### [解説]

数分程度で片付く平面ベクトルの基本問題です。

2

問題のページへ

(1) まず、点  $(0, -2)$  を通る直線を  $y = mx - 2$  ……①とおく。 $f(x) = (x-a)^2 + b$  のとき、放物線  $y = f(x)$  ……②に対して、①②を連立すると、 $(x-a)^2 + b = mx - 2$  から、

$$x^2 - (2a+m)x + a^2 + b + 2 = 0 \dots\dots\dots ③$$

①②が接することより、

$$D = (2a+m)^2 - 4(a^2 + b + 2) = 0$$

すると、 $2a+m = \pm 2\sqrt{a^2 + b + 2}$  となり、

$$m = 2(-a \pm \sqrt{a^2 + b + 2})$$

接点の  $x$  座標は、③より、 $x = \frac{2a+m}{2} = \pm\sqrt{a^2 + b + 2}$  (複号同順)これより、 $p = -\sqrt{a^2 + b + 2}$ 、 $q = \sqrt{a^2 + b + 2}$  となり、

$$l_1: y = 2(-a - \sqrt{a^2 + b + 2})x - 2, \quad l_2: y = 2(-a + \sqrt{a^2 + b + 2})x - 2$$

点  $P$  の  $y$  座標  $f(p)$ 、点  $Q$  の  $y$  座標  $f(q)$  は、それぞれ  $l_1$ 、 $l_2$  から、

$$\begin{aligned} f(p) &= 2(-a - \sqrt{a^2 + b + 2})(-\sqrt{a^2 + b + 2}) - 2 \\ &= 2a\sqrt{a^2 + b + 2} + 2(a^2 + b + 1) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} f(q) &= 2(-a + \sqrt{a^2 + b + 2})(\sqrt{a^2 + b + 2}) - 2 \\ &= -2a\sqrt{a^2 + b + 2} + 2(a^2 + b + 1) \end{aligned}$$

よって、 $P(-\sqrt{a^2 + b + 2}, 2a\sqrt{a^2 + b + 2} + 2(a^2 + b + 1))$ 

$$Q(\sqrt{a^2 + b + 2}, -2a\sqrt{a^2 + b + 2} + 2(a^2 + b + 1))$$

(2) 放物線  $y = f(x)$  と 2 直線  $l_1$ 、 $l_2$  とで囲まれた部分の面積  $S$  は、

$$\begin{aligned} S &= \int_p^0 (x-p)^2 dx + \int_0^q (x-q)^2 dx = \frac{1}{3}[(x-p)^3]_p^0 + \frac{1}{3}[(x-q)^3]_0^q \\ &= -\frac{1}{3}p^3 + \frac{1}{3}q^3 = \frac{1}{3}(q^3 - p^3) = \frac{2}{3}(\sqrt{a^2 + b + 2})^3 \end{aligned}$$

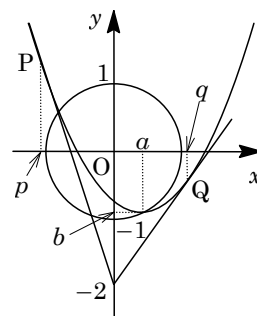
ここで、条件より、 $a^2 + b^2 = 1$  なので、

$$S = \frac{2}{3}(\sqrt{1-b^2 + b + 2})^3 = \frac{2}{3}(\sqrt{-b^2 + b + 3})^3$$

(3) (2)から、 $S = \frac{2}{3}(\sqrt{-(b-\frac{1}{2})^2 + \frac{13}{4}})^3$  となり、 $S$  の最大値は  $\frac{2}{3} \cdot \frac{13}{4} \sqrt{\frac{13}{4}} = \frac{13}{12} \sqrt{13}$ である。このとき、 $(a, b) = (\pm \frac{\sqrt{3}}{2}, \frac{1}{2})$  となる。

## [解説]

放物線と接線に囲まれた図形の面積が題材の有名問題です。計算はやや難です。



3

問題のページへ

- (1) 条件より,  $a_1 = 0$ ,  $a_2 = 3$ ,  $a_3 = 3 - 1 = 2$ ,  $a_4 = 2 - 1 = 1$ ,  $a_5 = 1 - 1 = 0$ ,  
 $a_6 = 0 + 6 = 6$ ,  $a_7 = 6 - 1 = 5$ ,  $a_8 = 5 - 1 = 4$ ,  $a_9 = 4 - 1 = 3$ ,  $a_{10} = 3 + 6 = 9$
- (2) (1)の結果から,  $a_1 = 0$ で,  $k$ を自然数とし, 以下のように推測できる。

$$a_{4k-2} = 3k, a_{4k-1} = 3k-1, a_{4k} = 3k-2, a_{4k+1} = 3k-3 \cdots \cdots (*)$$

推測(\*)が正しいことを, 数学的帰納法を用いて証明する。

- (i)  $k=1$ のとき (1)より, 成立している。  
(ii)  $k \leq l$ のとき (\*)が成立していると仮定する。

このとき,  $a_1 = 0$ から  $a_{4l+1} = 3l-3$ までの値は,  $3l$ 以下であり, しかも  $a_{4l+1}$ は  
 $a_{4l-6} = a_{4(l-1)-2} = 3(l-1)$ と等しいので,

$$a_{4l+2} = 3l-3+6 = 3l+3, a_{4(l+1)-2} = 3(l+1)$$

$$a_{4l+3} = 3l+3-1 = 3l+2, a_{4(l+1)-1} = 3(l+1)-1$$

$$a_{4l+4} = 3l+2-1 = 3l+1, a_{4(l+1)} = 3(l+1)-2$$

$$a_{4l+5} = 3l+1-1 = 3l, a_{4(l+1)+1} = 3(l+1)-3$$

よって,  $k=l+1$ のときも成立している。

- (i)(ii)より, すべての自然数  $k$  に対して(\*)は成立している。

したがって,  $a_{2015} = a_{4 \times 504 - 1} = 3 \times 504 - 1 = 1511$

- (3) 初項から第 201 項までの和を  $S_{201}$  とおくと,  $201 = 1 + 4 \times 50$  から,

$$\begin{aligned} S_{201} &= a_1 + \sum_{k=1}^{50} (a_{4k-2} + a_{4k-1} + a_{4k} + a_{4k+1}) \\ &= 0 + \sum_{k=1}^{50} (3k + 3k - 1 + 3k - 2 + 3k - 3) = \sum_{k=1}^{50} (12k - 6) = 6 \sum_{k=1}^{50} (2k - 1) \\ &= 6 \left( 2 \cdot \frac{1}{2} \cdot 50 \cdot 51 - 50 \right) = 6 \cdot 50^2 = 15000 \end{aligned}$$

### [解説]

群数列の絡んだ漸化式の問題です。  $a_1$  を特別扱いして,  $a_2$  から 4 項ずつのグループで考えていくところが複雑です。

4

問題のページへ

$$(1) f_1(x) = 1 - \frac{x^2}{2} \text{ から, 条件より, } f_2(x) = \int_0^x f_1(t) dt = \int_0^x \left(1 - \frac{t^2}{2}\right) dt = x - \frac{x^3}{6}$$

$$f_3(x) = 1 - \int_0^x f_2(t) dt = 1 - \int_0^x \left(t - \frac{t^3}{6}\right) dt = 1 - \frac{x^2}{2} + \frac{x^4}{24}$$

$$(2) 0 \leq x \leq 1 \text{ のとき, } g(x) = f_1(x) - \cos x + \frac{x^4}{4!} = 1 - \frac{x^2}{2} - \cos x + \frac{x^4}{4!} \text{ とおくと,}$$

$$g'(x) = -x + \sin x + \frac{x^3}{3!}$$

すると,  $x - \frac{x^3}{3!} \leq \sin x$  より  $g'(x) \geq 0$  となり,  $g(x) \geq g(0) = 0$

また,  $h(x) = \frac{x^4}{4!} - f_1(x) + \cos x = \frac{x^4}{4!} - 1 + \frac{x^2}{2} + \cos x$  とおくと,

$$h'(x) = \frac{x^3}{3!} + x - \sin x$$

$\sin x \leq x$  より  $h'(x) \geq 0$  となり,  $h(x) \geq h(0) = 0$

以上より,  $0 \leq x \leq 1$  において,  $-\frac{x^4}{4!} \leq f_1(x) - \cos x \leq \frac{x^4}{4!}$

$$(3) 0 \leq x \leq 1 \text{ のとき, 不等式 } -\frac{x^{2m+2}}{(2m+2)!} \leq f_{2m-1}(x) - \cos x \leq \frac{x^{2m+2}}{(2m+2)!} \cdots \cdots (*) \text{ が, す}$$

べての自然数  $m$  に対して成り立つことを, 数学的帰納法により証明する。

(i)  $m=1$  のとき (2)より, 成り立っている。

(ii)  $m=l$  のとき  $-\frac{x^{2l+2}}{(2l+2)!} \leq f_{2l-1}(x) - \cos x \leq \frac{x^{2l+2}}{(2l+2)!}$  の成立を仮定すると,

$$-\int_0^x \frac{t^{2l+2}}{(2l+2)!} dt \leq \int_0^x \{f_{2l-1}(t) - \cos t\} dt \leq \int_0^x \frac{t^{2l+2}}{(2l+2)!} dt$$

よって,  $-\frac{x^{2l+3}}{(2l+3)!} \leq f_{2l}(x) - \sin x \leq \frac{x^{2l+3}}{(2l+3)!}$  となり,

$$-\int_0^x \frac{t^{2l+3}}{(2l+3)!} dt \leq \int_0^x \{f_{2l}(t) - \sin t\} dt \leq \int_0^x \frac{t^{2l+3}}{(2l+3)!} dt$$

よって,  $-\frac{x^{2l+4}}{(2l+4)!} \leq 1 - f_{2l+1}(x) + \cos x - 1 \leq \frac{x^{2l+4}}{(2l+4)!}$  となり,

$$-\frac{x^{2l+4}}{(2l+4)!} \leq f_{2l+1}(x) - \cos x \leq \frac{x^{2l+4}}{(2l+4)!}$$

すると,  $m=l+1$  のときも成り立っている。

(i)(ii)より, 自然数  $m$  に対して(\*)は成り立っている。

(4) (\*)に  $x = \frac{\pi}{6}$  を代入すると,

$$-\frac{1}{(2m+2)!} \left(\frac{\pi}{6}\right)^{2m+2} \leq f_{2m-1}\left(\frac{\pi}{6}\right) - \frac{\sqrt{3}}{2} \leq \frac{1}{(2m+2)!} \left(\frac{\pi}{6}\right)^{2m+2}$$



すると,  $0 < \frac{\pi}{6} < 1$  から,  $m \rightarrow \infty$  のとき,  $f_{2m-1}\left(\frac{\pi}{6}\right) - \frac{\sqrt{3}}{2} \rightarrow 0$  となるので,

$$\lim_{m \rightarrow \infty} f_{2m-1}\left(\frac{\pi}{6}\right) = \frac{\sqrt{3}}{2}$$

### [解説]

定積分と不等式, 加えて極限を問うものです。記述量が多いですが, 方針に迷いが生ずることはないでしょう。